

ココロある釣り人へのお願い！



ミゾゴイ
Japanese night heron

第1回 釣り人による全国ミゾゴイ生息調査

春、解禁と共に溪流へと向かう釣り人の皆様、絶滅が危惧される鳥“ミゾゴイ”を私たちと一緒に調べてみませんか？

聞き慣れないこの鳥は、かつては北海道をのぞく日本中で確認された鳥です。現在の推定個体数は約 1000 羽、絶滅の危険性のレベルは環境省の基準で、ヤンバルクイナ1つ下、イヌワシと同じランクです。

早春、フィリピンや中国南部から海を越え、繁殖のために日本にやってきます。繁殖する場所は里山の沢沿い。そうです、ヤマメを釣りに行くあの場所にやってくるかも知れません。バードウォッチャーでも溪流に鳥を見に行く人はそうはいません。つまり、この鳥を調べるのは、ココロある釣り人が適任なのです。

調査の方法は至って簡単。釣りに行ったときに、ミゾゴイらしい鳴き声が聞こえたら、ホームページにアクセスし、調査フォームに入力、そして私たちに送ってください。私たちが、ココロある釣り人による調査結果をまとめます。情報を提供して頂いた方には調査結果をまとめた冊子と何かイイモノをさしあげます。

釣り人に出来ること

釣り人だから出来ること

主催 有限会社レイヴン

ココロある協賛メーカー、ココロある協賛釣具店、ココロある出版社、ココロある個人など協賛大募集中です。



Photo: Akio Endo

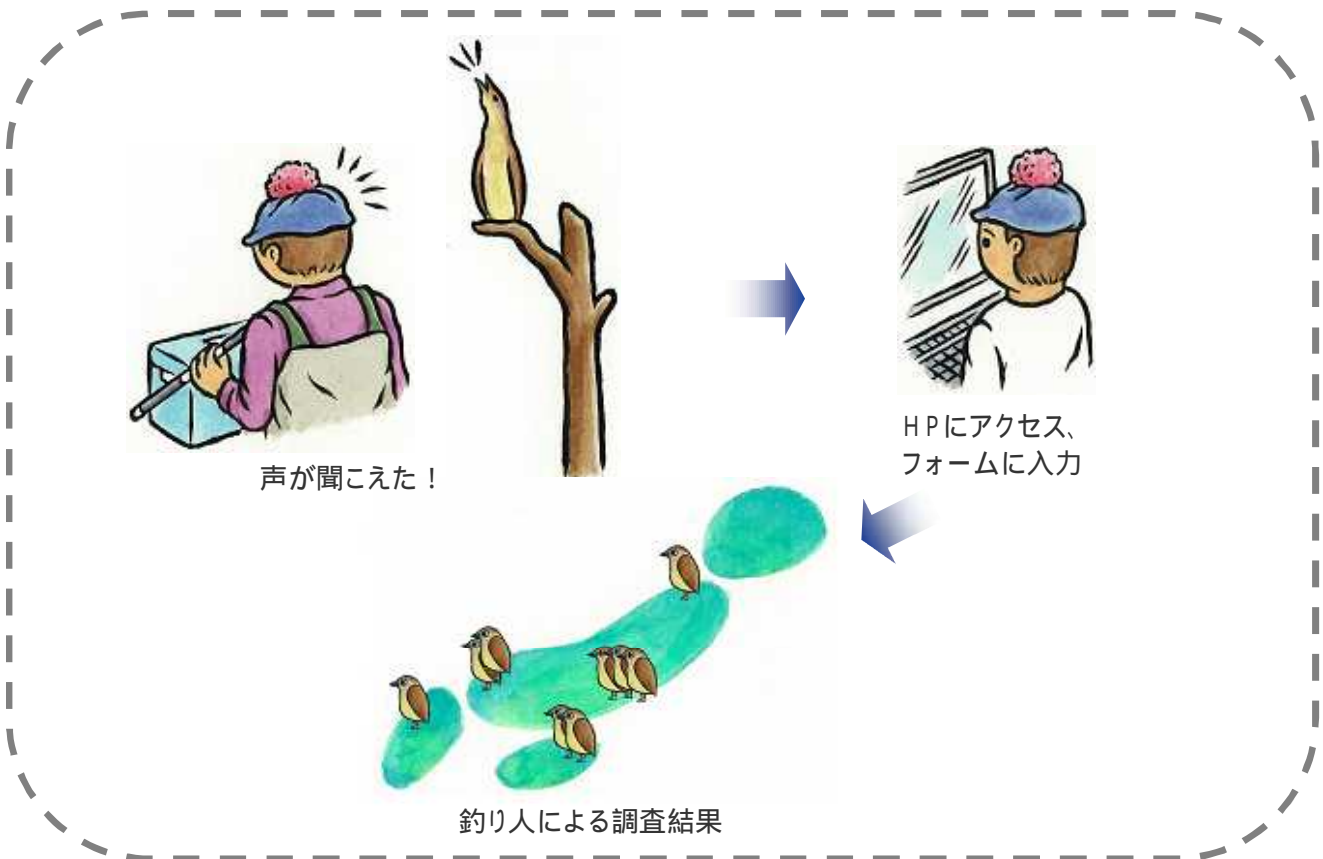
ミゾゴイと釣り人の出会い

早朝または夕暮れの薄暗いとき。
 今日とはどんな釣りになるかと、わくわくしながら準備をしているか、はたまた、今日の釣果に、にんまりしながら片付けていると「プォー、プォー」と低い声が5~10回繰り返し聞こえてきます。

場合によっては薄暗い中姿が見えるかも知れません。



← 声が聞けます



調査結果について

皆さんから頂いた情報は、私たちがまとめ、ホームページなどで発表します。

詳細な情報は、保護の観点から、むやみには公表いたしません。

また、環境を見る“目”として、釣り人の力の一端を、社会に示すことが出来ると考えています。

情報の内容によっては、河川改修など環境の改変時に、事業者に対して保護を呼びかけることも考えられます。

レイヴンってなに？

私たちレイヴンは、環境アセスメントを主な生業とした、純営利団体です。

今回の挑戦は持ち出しばかりですが、皆さんと行うミゾゴイ調査は、この国を1mmでも良くする手助けになると思っています。

1200万人とも言われる釣り人は、誰よりも日本の自然を観察し、感じる事の出来る人達かも知れません。

ミゾゴイにとって良い環境は、釣り人にとっても良い環境だと思えます。ご協力頂けることを願っています。

只今、ホームページ鋭意作成中です。ミゾゴイの詳しい情報や情報入力フォームなど、2月末には完成予定です。